

おい自然園 自然観察会

春の生きもののさがし

新緑が気持ちいい

日時 平成28年4月23日（土）午前9時00分～11時30分

場所 おおいゆめの里

講師 一寸木 肇 【おい自然園園長】

参加者 12人

サポーター1人

職員 1人

双眼鏡で鳥を観察しよう



みなさんこんにちは。

今日は、春風がとても心地よく気持ちがいいですね。

これから、春の生きものさがしをはじめます。

まず、双眼鏡の使い方に慣れましょう。

①目幅を合わせます。のぞいてみて画像が一つに見えるようにしてください。

②次にピントを合わせましょう。

③右目と左目で視力が違うので、右側のレンズを動かして左右で見え方を調整してくださいね。

注意点としては、

太陽は絶対に見ないこと。

それと、双眼鏡は精密にできているので、落としたりぶつけたりすると光軸がずれてしまいます。大切に使うてくださいね。



耳を澄ますと、きれいな鳥のさえずりが聞こえてきました。

声が聞こえる方を見ると、約30メートル先のアンテナに鳥が留まっています。

早速、双眼鏡で見てみましょう。



Q 体の色はどんな色ですか？

子 茶色

Q 顔の模様はどう見えますか。

子 頭と目のところが黒くなっている。目の上と下は白いよ。



今、見ている鳥はホオジロという鳥です。
顔の特徴を双眼鏡で観察できましたね。

木のてっぺんでよく鳴いています。

ハナミズキの花はどこ？



ハナミズキがきれいに咲いています。
それでは、質問です。
ハナミズキの花はどれでしょう？
白い部分でしょうか？

虫眼鏡で、観察してみましょう。

白い部分が花かと思っていたけれど、小さな黄色い花がたくさん集まっていますね。



ハナミズキの花は、黄色い小さな花がたくさん集まって咲いています。

花びらではないのに花びらに見える白い部分は、苞（ほう）といって、花びらのつぼみを包んでいた葉なのです。花びらよりも葉の方が花びらみたいです。葉と花びらはもともと同じものなのです。

どんな意味 ドウダン？



今度は、小さい白い花がとってもかわいいドウダンツツジの花を観察してみましょう。

☑️ どの花も下を向いて咲いていて花が閉じているよ。

花びらがつながっているけれど1枚？

匂いはあまりしない。

そうですね。花びらはつながっていて1枚ですね。

ところで「ドウダン」ってどんな意味でしょうか？

ドウダンという言葉は灯台（とうだい）から来ているそうです。

灯台とは、岬にある灯台のことではありません。

昔、電灯がない時代に、夜の明かりはどうしていたかという、灯明皿（とうみょうざら）というお皿に油を入れて明かりをともしていました。この灯明皿を乗せた台が灯台です。

それでは、このツツジのどこが灯台なのか探してみましょう。

葉がついていない枝を見ると枝の先が3本に分かれていて灯台に似ていますよね。

ここから「トウダイ」→「ドウダン」なんですね。



ヤハズエンドウはアリと友だち



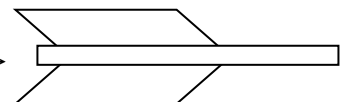
みなさん、この草の名前を知っていますか？

☑️ ピーピー草

この草の名前はヤハズエンドウと言います。

ヤハズは弓矢の弓の後ろの部分のことです。

この部分 →





葉を観察すると、弓矢のやはずに似ている葉がありました。

ほかにも、カラスノエンドウとも呼ばれ、これは、実が熟すとカラスのように真っ黒になることからそう呼ばれているそうです。

さて、ヤハズエンドウをもう少し観察してみましょう。

何か気がつくことはありませんか。

子 アリがいっぱいいるよ。

アリは、何をするためにいるのでしょうか。



ヤハズエンドウは花のほかに、蜜を出すところがあって、アリはその蜜を食べに来ているのです。

この蜜を出す部分を花外蜜腺（かがいみつせん）と言います。

ヤハズエンドウは、アブラムシに食べられないようにアリに来てもらい、自分を守ってもらうために蜜を出していたのです。

つまり、アリはガードマンだったのですね。
すごい知恵です。



採れたての玉ねぎは、おいしかった。



畑にたくさん農作物が植えられています。農作業をしている農家の方にお話を伺いました。

「こんにちは。この作物は何ですか。」

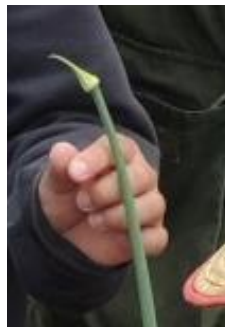
農「これは玉ねぎです。今、とうが立っている玉ねぎを見つけて抜いていたのです。」

「とうとは花のことですよね？」

農「花が咲く準備を始めると、玉ねぎの中に硬い芯ができて市場には出せないんですよ。でもこうした玉ねぎでも十分食べられるので、自宅では食べます。」



「なるほど、それでは、とうが立った玉ねぎの中がどうなっているのか見てみましょう」



半分に玉ねぎを切ってみると、玉ねぎの中心部分に確かに硬い芯がありました。

それでは、今度は、とうの部分を観察してみましょう。とうは花のことですから、今はつぼみですけど、つぼみの中がどうなっているのか見てみましょう。



つぼみの中には花の赤ちゃんができていました。

今度は、硬い芯の外側の部分を食べてみましょう。

「味はどうですか？」

「すごくおいしい！」

畑でとれたての玉ねぎは
大好評でした。

農家の方に感謝して、畑を
後にしました。



桜にもあった花外蜜腺



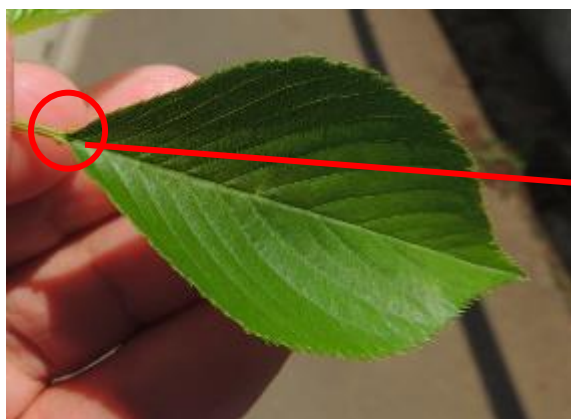
この桜の木はソメイヨシノの木です。

この木にも先ほどのヤハズエンドウと同じ
ように花外蜜腺があります。

どこにあるか探してください。

葉の付け根に2つありました。

見つけれましたか？



ヨコツナサシガメの脱皮



ソメイヨシノの木にの幹に黒や赤い色の虫を子どもたちが見つけました。

ヨコツナサシガメという虫で、カメムシの仲間です。



今日はとても運がいいですね。

ヨコツナサシガメが脱皮しているところを見ることができました。

脱皮したては、体が柔らかいので、外敵が嫌う赤い色で身を守っていると思われます。

時間がたつと体の色が黒くなります。羽の白い模様、お相撲さんの横綱の綱のように見えることからヨコツナサシガメと呼ばれています。



自然観察は、普段なかなか見ることができない場面に、偶然出会うことがあります。

じっくりと観察してみましょう。

＜注意＞

ヨコツナサシガメに刺されると、とても痛いので、見つけても絶対に触らないでくださいね。

フジの花を観察しよう



フジの花がきれいですね。
ところで、フジの花びらは何枚あるでしょう？
4枚？ 8枚？
実際に、調べてみましょう。

答えは5枚です。
フジは先ほどのヤハズエンドウと同じマメ科の仲間です。
大きな花びらの真ん中にある黄色い部分は旗弁（きべん）といって、ここを目印に虫が寄ってくるように黄色く目立たせていると言われています。



キムネクマバチが運んでいたもの？



農村公園の休憩所の屋根には小さい丸い穴がたくさんあいています。





穴から顔を出しています。このキムネクマバチはメスですね。

メスは顔が真っ黒で、オスは顔に黄色い部分があるのでオスとメスが分かります。

キムネクマバチは、何もしなければ、刺したりしません。

ちょっと、網でつかまえて観察してみましよう。

容器に入れて観察してみると、容器にたくさん



キムネクマバチは観察後逃がしてあげました。

次に、容器にたくさんついている黄色い粉をプレパラート（ガラスの板）にのせて、顕微鏡で観察してみましよう。





「わー、きれい！」

「お米みたい」



これは、何の花かわかりませんが、花粉です。

キムネクマバチは、花粉を自分の巣に運んでいたのです。



昨年、巣の中がどうなっているのか調べてみました。

すると、穴は横に掘られていて、いくつもの部屋に仕切られていました。

そして、その部屋の中に花粉でできただんごが入っていました。

そのだんごをなめてみると甘くておいしかったですよ。



キムネクマバチはこの花粉だんごに卵を産んで、幼虫は花粉だんごを食べて成長するのです。

今日のできごとを新聞にしてみよう。



今日も約2時間の中でいろいろなことがありましたね。

自然観察会では、毎回、色々なことがあり同じことが決してありません。

それは、自然がそれだけ、多様でたくさんの不思議に満ちあふれているからです。

そして、たくさんの不思議を見つけることにより心の中で出来上がるのが「おい自然園」です



後日、観察会当日作った新聞を町生涯学習センターで掲示し、紹介しました。

